蛙井集一

中村俊定文庫
文庫 18
73
1

中村俊定文庫

むかしく父郎と嬢也ある時代乃
おほん神の祠とりやみ情非情の声
いたまつ言ぬものまつさしまとなん云
然れかれて我まひいなる時より今に
いたりまて誹諧しり愚意をよせ
たんも世れりしく難波の声の
屋乃いとなるをなとひまくに今れ

是は屋んとなる紀庭のをしへ外
わかりとしやけれ奇の道も神ハ
ゆるし給ふ所ハ見んかたをしらぬ
志我のへて蛙井集となつけて世に
ひ詠め侍るもおりしくこ也

山口氏自足子
清勝

蛙井集題目録

春部

立春　水掛祝　賭弓　若菜
胡鬼　懸想文　子月　初寅
腹赤贄　初午　鶯　雪
白馬　梅　鶯　霞
雪　春氷　春雨　木目
猫書の意　薪能　角組芦　若鞠

二月堂行
春草　二月癸
蕨　春月
桂　涅槃會
曲水宴　桃塢千
鳥合　蓬鋒
楊　辛夷
沈丁花
菽　歎冬

柳　餅配
芸　去筆
返田　苗代
燕　三月三日
梨花　花
小菜花　海棠
木蓮花　躑躅
蝶　蛙

帰雁　雲雀
春郭公　櫻鯛
新茶　菖春

雉子　烏巢
若鮎　永日
雜春

蛙井集巻之一

立春

詩海筆巾や大事ハ二ツ月　古法方 御詠

罵れ時ひしゆなりてや　三ハ書　御詠

屍象やなりたくもゐれきそ始　宗 令徳

門なるに清代の恵例や延喜草　同 立圃

秋の田ハ穂もやきのふ今ハ書　同 令富

立春早うりたれハ

立春や二日路ちやし　午ハ巣　西蘇

蓋人やめてたきたりる子と此書　京　貞室
けさくさや梅さへ雅さへ今朝此書　日　重松
かさり松の緑や今日此たる此抱　日　季吟
さいく此花やたちつゐとひ此書　元存
坊主手ハ身に大ふく乃業今子　珍也
孝門のりけりとなるや親子草　宗翔
清代ハ源氏梅ハかゝるや花の書　保友
鉢の名も花に如よりけり今日此書　立以
神ハ忌ひなしや年經て若戒　如貞

鳥ゝ鳴　東乃書や都入　行風
申此年ゝろち巳年や元方棚　宣安
廣な世の東海道や日方此書　定親
地獄より紀世の初花や日ふ此書　為親
門松此都や雲去乃神おゝ　親十
國民此陸あつ紀女や こさて始　清揚
入まへもらしや都東此門の書　路春
業子やなる色ていたゝせ玉乃床　本茂
ゆくに人異やまゐる若戒　純俊

門は雲立ちや双羽呉商れ年　泰極
家旦は都をの人句れ作とうか　俊佐
古年に呉本や継て花れ書　立乾
書れ物とかめにかゝや如さり縄　松意
書初れなけ筆や是保久字　松緑
明高祝ふ子戸万戸や民れ書　伯貞
なふやとう神とこれきけ若戒　冬茂
申のさしまゝ
書初れ女の所や申乃智恵　きと

世けりや屋を花れ花乃書　正勝
三口けりや松の下枝ゆかさり縄　和乾
元服し侍り年
元服をかとや絶さ無宿れ書　泰書
と雲れ矢たりや笑花れ神の書　方女
書初や名ふから書れ芸用集　与俊
若ふかりけるにやかゝん書かん　以書
年と日はくらへ年りも神れ書　如貞
されハ和所れ事然かく試年代　山川　正永

なしかといへるわろひさ立て書れ乳　由平
蓬莱や大内に志る位山　敦書
去年今年詠をけりおふ音是なる　貞延
若みやよをこめて汲清る竹　貞友
うら風こゝろとなふやこきそ始　友淨
古奇にいたくなとせる君の後縁　西蘇
たまをなりと志て服にせん諷初　白甫
天とのをいふ事捨増るたるれ定　清勝
いたをとやかひのむをまて鏡縁　光書

八十や子にあやうりて詠れ書　一歩
我年やひとつお稱れ松乃内　きを

都原なり源氏の大事
作り侍し次のとしよ

なふや実揚名れ所花乃書　立次
試筆ことやんの賊れ蘇ひら紀　本也
風月に増花鳥れ年始哉　常政
寛文と排れ由きよ神の書　季清
民と祝へめてた宰れ養れ絣　直次

かきり縄やよろこひの下しあり春の春　道入
天下をやおさむ元方れたるに　親良
神國や治る御代の如み餅　正武
うらしき緒ハ万年草の鏡餅　白甫
かきり縄やあいく祝ふ爾くさまら　貞之
袴きて人ハとの門との宿れ春　唯可
のこふまく礼に立ぬる年始哉　西蘇
新れ宮や書をめにしる昔今　方孝
むふるや寄せぬ門り若戎　秋月

聖代やひとの心の花れ春　方春
若迎草や山をひらしに御代れ春　松元
行春や雲れよまていぬの年　正友
屠蘇酒を作り世界れ菓花ハ　季巡
春菓も立年ますしをれ太元月　宣貞
若迎草や三方正面の作り山　孝吉
今日冬ふ御かゝれにや若戎　清勝
祖初や志りるに一子の花れ春　友加
いや高紀むまし門雲れ見えしハ　元存

使令将功名家患し今朝の春　土佐 皆虚

賀王乃御代ハ文德のはしめ哉　同 雲宮

鶴の子よこ松幸御代乃春　同 紘之

蓬莱や目出度事の不尽の山　同 守治

春立て四方乃かざりや鈴鹿　同 口任

かりそめに松とりもちの禮かな　作る 淨蓉

去年今年咲かゝれや花の春　津お 胡今

国の春豊の祝むくひさかな　同 可益

蓬莱やこのうくれ佐ゝり山　同 正順

湯まれもしうけよ屠蘇の酒　同 定清

諷初や春のとのそ長き酒　同 可益

年とれハ飛車角ヶ歳年の春　大坂 宗揺

聖ハ道にかしこしや治むる代の春　和州 正盤

三ヶ日先たてるや古君の春　同 無雄

立春ハ始のくしたる日足かな　岩見村 為氏

蓬莱やかさりとてる富士ハ草　同 佐昌

祝ひりてや御代代の数の子君が春　伊勢 清貞

かざりしや祝ふ三ヶく一天下　和州寺戸 一笈

屠蘇酒や初子の日ふ乃ふ事
延年の草也葉かさり宿の生
志め縄や山鳥の尾の志ゝ麹長
世ハ是に昨の道より日ふ也の生
猿女中ハ宮うけし也若戎
猿智恵も若又三の日ゝしめ外
爪琴も日ふ初の初の小哥外
白髭の神やその如き若戎
書初や万水一露筆の海

日 寅立
日 康吉
日 常辰
京 重尚
日 正朝
日 家英
日 止女
日 資方
日 友貞

屠蘇酒の人ゝや春の夜
初夢やまりをのへ春の夜
男女道をことにして高門の生

日 角立
日 康吉
日 湖去

八十の賀

伊勢雛や八十瀬越来る年の生
花と尺ゝかさりや松よさり教
日にむかし書ハ本を少年の如
宿の書に老を免許の札も如
世年よくなるや書つる東琴

日 令徳
日 令富
日 玄隆
日 季秀
日 貞室

丹後の城寺に泊りへてよくさ部と云
所にいりて政相のあかしさにまふ
て年よりかんとすとて扨も
とやかくされかれハ

明て去にかおや若さざこかり　日 含富

見無鴻もしゐに乱計ふ蓋　同 含陸

門松の枝やまさまて元方棚　寵民

水掛祝

為富にゃの名拙かく親て水祝　路也

あうて婿やあいさ婿か水祝　重安

かく親世にとめの軍とてや水祝　偏負

若おりん名もとそ奔れ水あさ也　加州 可入

うけてゐて名孔章とそ水祝　一年

昔れすとや婿見守のあかふ水祝　守直

春りすとめ去れ祝ハや豕あさ也　宗長

水口とうふ湯や盆とて恵み測　清之

ぬるしさへ湯也つかりにかあさ也　清勝

賭弓

賭弓ハ法さめたるれぬ若き云哉
志いりんに射るハ賭弓の若き云哉　京　昌宝　宇林

若菜

数鳴の道さ海さけぬ若菜かな　京　西武
今日ハ口の菜法ゆるさ楚雅哉　京　元朝

左衛門吉通寺をとふらひて

前程の吉法しても佛の座　清勝
あすりしハ口の菜法ません仏の先　太平　伯貞
草鞋をハあらふ女めしを若菜哉　不学

あすハみかたりとく法めよ佛の座　加州　程次
鶯菜かふらを素のうつ　松宗
来摘や和ハすてしよの佛乃座　兵庫　四首子
余宝来は摘手をふるゝ若菜哉　河州　正武
弥勒雪ハ宝冠なりし佛の座　太伯　雲雪
飛せしとまりたる法もや鶯菜　月十六戌　金松
素毎をたきたゞるかつかう姫　月　みや
摘人をくるひきて雅にふせり哉　月　花軒
二葉よりそのかくまなし三葉芹　加州　芝尾　勝可

甲子八世の開闢乃神子かな　久成

岩に松は根ゝ子日や苔むしろ　宣久

夢そむすふ子の日のきぬや夜の霜　正利

おきもやうらん子日の松の数　西承

初寅

初とらにまゐるや他家まんまん天　春瓢

腹赤の贄

今日や三七種の腹赤の贄加蔵　本茂

持のかへ人や腹赤乃贄かへり　宮崎 西揚

初午

初午も暦のうへや書紀乃稲　大坂 可道

初午の角をけにあふや法の道　但貞

京都へおいさつ有

多ろ乃宗ことのは九年の名や代　定朝

踏歌節会

九重の子の子は踏歌の節会哉　和州 筆尾 勝可

十分に殺子は踏歌の節会かな　和州 明安

右衆長

永く代かとんと雨りぬる佛半りな　春鄭
さもや花をとゝかむやとうと　鍋行　知報
左義長をたゞくとなるハ巻中　良久
左義長やまことをこゝろて　鍋行　昌室

白馬

白馬乃祝義や萬よりあしけ　箸尾　稀可
例をひくハ當を白馬の花云小　魚僧　芒悦
無病かてまことをこゝろの花云小　京　半林
花云て糖たいしやく白馬小　和州片思　定友

梅

万句巻ニ云り

梅の事や神垣志る紀下る此札　京　立圃

聖廟乃御室前に詣て

先梅のさくハ和漢の花さい初小　無序　烏雲
清かむ花に大かれや梅曆　良久
天神や梅か名りかるかなかな　智詮
書そ名の此中にひさてかい花の見　貞之

かくれ天神に新灯のありけれ

毎に咲花や詩灯神れ梅　清務
ひらけし梅を夜そや編名梅　坊　自延
梅の香ハ如何ぬる鼻の都りか　一切
そなりて咲ぬる梅やすゝ都し　一平
香ハ源し是や蘭府乃窓れ梅　兵庫　尚昌
三光乃香れ月当やかしり梅　其趣
開かり天一天神れ梅こゝろみ　火昌
蕊かみ無おしてゝ梅花やこれ梅　宗朝
和香五つく世の霧にかれ梅れ花　大佐　春作

鶯も經笑かりや落梅花　日　花香
そめおかり書りこと思ふ梅れ　日　江陵中　正定
見ぬ人に折屋り梅れ一枝かれ　日　一口
鼻あれハ則ゆるや梅れかぎ　日　可笑
神れ慈悲ぬり紀ハ梅の白ひ哉　加州　一煙
花乃霧ハ行のとしや編名梅　日　可又
かゝ梅や浪唐なされ神みやけ　日　一煙
すゝかしもしや梅見ん花の宿　伊東　岚夕
見結ふや美も行幸梅乃花　泉州　幸政

梅蠹乃業かが毎 蠹乃毎 清揚
風の口に戸や毎そ白まぬ窓れ梅 白甫
如花ひけてアルるや如の香れ窓れ梅 貞正
ちよくめをそむくや梅方梅の風 宛 西永

兄の三廻忌りし

花の兄を里ゆやをとしおひ啼 伯貞

追善

数切も梅系梅や清乃花 来清
花やすこふしかなこそれ梅 和列 信昌

徒梅乃嵐ハ為星おしかれ 日 為清
梅や先すいせん稱れ花の友 京 奈吟
所ゆるふをとひ見るや花の兄 下村氏 尚芳

雛波人へ（おいさり）

梅のさくいかしや雛波のこりひとつ 堺 西俊
梅か香や園をこそ手をひ清師 休甫
咲梅の花見や袖にとめ香梅 [illegible] 友重
天満ゆ祢乃お旅り宿の梅 立以

鶯

鶯乃聲きく也八景千載　大作　花示

籠とりて千とせとる聲を含む鶯　路也

鶯の羽や清花径の合春哉　大作　可道

葛藤住吉に一宿窓鶯流の

聲れし鶯友

鶯や竹をも寝てに玉みやけ　清揚

花折しや鉄のちりに含む鶯　良久

新芽しや咲く鶯丸ときまそろ　本也

鶯丸聲に清子朔の毎とら孫　一拍

鶯乃聲にもりや花春楽　元泉

讀てかしこ川さやかに含む鶯　備中　如言

まとの外すも讀かり含む鶯　多武

基家書を志らぬ径にみてめとり　十三才　辰之助

あ川森の鶯籠や書ふ薬海　井上　可益

鶯もなれてくらしや猫もん径　山川　西泉

兵庫にて

取りし鶯丸声や径の鴻　宗政

妙くと鳴鶯や清乃下系　来信

藏雲や身をたとけぬ鶴の今宮鳥　去作　成行
鶯や素れもやしれ笛乃役　清揚

霞

編笠の紙かなとむそのうち墨　去作　宮内寺皆座
風巻の志川なるこ山乃横霞　[illegible]也
素霧や芳川しらうや甲山　[illegible]　正恒
宮に洞ハかんやうきうの素霞　去作　可道
幕をうしや霞の関乃妻不　家　天林
四方山ハ霞めと来ゝや周の葉　和列　清正

戴中みて

かそてふをよこにたまく霞ゆ　加列　一鐘

和列みて

絹縁り屏風り嶽乃薄霞　清揚
宮治川ハ葉嶽とこそ女霞　白雪

霞のうらみて

都縣をいとく霧乃うしこ哉　共序　雪昌
屋れ絹や先ゝ列風の鶴霞　清揚
西東水も雪乃りをみかれ　河列　利莫

日雲の雲は雪なれ雪なれひかり見し霞は　日　西武
天の中をさ対なすは霞なる　前　西形
ゆゆしりと居りは霞の家なる　新　昌計
神子の濱にし霞や夕たすき　始美
雨とを浪横霞りや籠なる　反保
雨は花乃袋すきりう寸霞　宗朝

跡雪

市に消し雪や白雲富士の雪　鶴也
鶯乃殺とうぬや富士の雪　松瀬

新の雪やまゝれ昌をあらひ乃　新　清定
雪佛消ぬはきやうきなれ　良久
こさえんとや日新てあひ雪佛　始徳
説法やとう神とこゝろ雪佛　一入
雪佛消ぬや山の頂小雨　貞之

津國道の記乃中ゟ

餘寒にや雪乃綿重居り傍　清勝
目ゆけすの天王へと雪をん乃　雲山
雪消てたけわらけや鬼瓦　幸馬中　常俊

下もえぬおりひ消なん雪をんな　加列　可入
春ハ雪ハ花ひんをひやはまんすう　和列　正賢
うちとけて日かやかりれの雪女　左列　内平

春氷

春ハ月に毎してかゝるゝ水ゝ　一切

物別くしたゝみて

ぬる日にかゝるゝ雪田川　本茂
ちりこすむ氷や毎て唐瀬川　伯貞
氷すやとけいゝ志る紀春ハ時　京　宇林

春雨

春雨や花乃おゝ白れ下こゝろ　宇学
葉の水ゝ天目山の春ハ雨　呂侯　宇政
すゝ行しゝ春ハ日足と雨ハ足　左衛日知伝代　路宣

道の記の中より田蓑鴻にて

春雨にさぬハ田蓑れ志すつゝれ　清勝
春雨れ花りや名称情ふり　和列　宣利

木間

木のめ清りすゝや俗ぬうゝ雨宗　路吉

書面とにしみ合ひ木の間小
如きかしてかんしもつゝ木間小
降面れまゝ紀をすゝ木間小
木間とハ詠ゆるも又この間ゆる

摩那山みて

木のめ法りあるや御母摩那山
人ゝれちきりて法りの木間ゆる
書面や木の間法りの紀ゆひ物
木にのこゝろ書に木のめや白服

書面 正恒
多綱 喜恒
坊 良賦
芸香 宇吉
清揚
真正
森 美柳
京 芸林

猫書意

猫御戸や書にんを法して無
わりて鳴や思ひかへれ猫の書
書志ゝ書をゝ海紀ゆれや猫の偈
書こゝ名や大砲のさしけ猫
義の中の男猫や書をもの行
をのゝ書のぬるゝ下やゝ毛猫
書をかゝ意あゝ紀このゝ好き
意やせはれ[illegible]かゝゆや秘密猫

猫也
清揚
加別 可入
日 安之
河別 吉政
日 友好
清揚
伯貞

嫗ゝ出ゐにまめり角組あり此歌　宗治
延ゝりを角組とかんあり此歌　清勝
難波江ハ拵ゐのある世ゝ急ゐ　昌室
草かりや角組といふ世ゝ笑字　今井氏　正室

若希

出家ハ出ゐにまいるや行勝ひめ　良人

二月堂行

行ハ声をこりるや二月堂　玖也
織物ゝ名をひきや二月堂　和州　信昌

こりゝ人やきやにあり屋二月堂　日　明友

柳

川よけ此くやをこけ此糸柳　休甫
周城出ゐや織布かして糸柳　泰吉
吹風乃ゑりゝ也かを糸柳　清勝
水ゝしにかゝ影や入江此柳髪　玖也
猪をゐり木ハなりかいゝ柳髪　通行
打人やまけものにする若柳　白甫
ゆふ風に乱るハいゝ柳髪　和之

らし何をかけてもしろしや茶柳　[illegible]
玉柳の家や柳の[illegible]の玉　[illegible]
月影をかけるのたれや茶柳　貞正
風の手の何を[illegible]こゝ数柳　清掃
風の神の[illegible]や[illegible]柳　日
神風は玉搭のしかり柳かゝ　[illegible]
枝きしは柳や[illegible]の髪　信昌
蝶のゐは薄[illegible]や川柳　[illegible]
[illegible]姫鴿といふ[illegible]て

姫鴿乃柳や[illegible]髪　日　可[illegible]
半月や影をさし搭柳髪　日　[illegible]
面影のめでたうしも[illegible]柳髪　[illegible]
吹風をふせけやかこ数柳　日　清之
柳髪に香焼とかんの煙　日　花法
[illegible]の玉の[illegible]さすや柳髪　日　正宝
[illegible]を切てこやさしとしの茶柳　日　吉[illegible]
[illegible]ひらりとゆひり柳髪　日　花法
蝶のゐやりとゆひとかる柳髪　日　[illegible]

道のへ乃清水てあらへ柳髪　筑前　政利

柳のもとに立よりて

立とあり清れ底を待や柳陰　兵庫　思尊

風あらて誰かうらく為に柳髪　日　尚昌

河州　玉槍店にて

玉槍や音つる川瀬の柳髪　河州　吉政

吉野餅くらり

釣たしてまいれ吉野の餅くらり　和州　定泰

春草

さらりをもしろぬるやしきや土手花　清揚

根をさすや岩れかくれなき草　加州　周元

ぬれのたり花ちりて地へまんとなり　和州　見嶽

草刀をもやしたつるや鞍草　日　為清

周かひあてゝ刀よりや枝葉の茶毒花　日　信昌

本地ゆもかゝ地ゆもわれ鞍草　大和　見計

ふる紀葉ゆや若葉かりうなき草　日　内平

くりて刀ろハ永平なきや今殘花　日　福知

咲花や毎れ一せい清ゝ草　日　花清

木うれハ天龍やもてる敷草
なし出てしるべきハ孤洲なるべし
鶴望しや田れくろ塚の鬼菊
尺るうちやる夫菩もまて今幾花
風のゆて打まえるよ敷草
今幾花れ風のまや百ゆさり
ゆてすとも前に座りけ鬼菊
前にて賤ハ摘ら死葉摘川

二月癸

月 為年
名別 鴻菴
其家 正恒
月 胡今
加別 可之
伯貞
冬民
正友

病ハ敷二月癸やよりきれ矣
日を見ひと出を見る二月癸ハ
今ハ二日無癸にさる病ハ子
身をもむや二日癸れ切りくさ
二日癸すへて病をちりけるか
きれふすへて今日きく二日癸ハ
命をむる開ハ二日れ癸ハ姉
二日やひハ病れ根をや切りくさ

莖

純候
京 平林
今茲
本也
貞正
知牝
清猪
季処

花見ようと思て此地し　菫草　作貞
花のうちや花は家の出来学大すき道　[illegible]　可益
玉葉詠乃ひりやるりの浜の菫　元武
早く咲花は重はすみ道哉　元安
蝶は家の天水の道も浜の菫　本也
みられてやゆうるんもすみ草　貞高
編音梅の下に咲をやうす菫　良久
名にしおふ花蝶やすこう浜の菫　本也

去草

天地和合らく事するや去草　舞悦
誰か好る道より雅哉紀綱学の花　京　安林
摘ぬ事にけりやすさ菜去草　美智

蕨

手かれは足ひ名蕨かな　加列　一鶴

西坂めて

ちまりとやしく手をにまり蕨餅　松也
手をにまり人情をなれ蕨ハ　意朝
鶴ゆうとは鶴ゆ婦のうとひ小　加列　清貞

りえなりてもゆれはいれもぬとしかり　今様
藤ゆれはちをまけてや草村　白角
心人の酒ゆゑもなりこしかり　宮人
あけてたとしは藤ハ藤ゆれまりけ　山川　正家
吹風ゆてうちくり藤ゆれ手　大伝　可良
照れ志こふ夜の春り藤ゆれ手　清揚

春月

花笠やさて春ゆくとて春ゆ　京　本林
春服やすこのかりをも勝月　宮朝

霧ゆ御樽乃ゝ見よ春ゆ月　長秀　貞和

春の夜春ゆ月まりしかとへ
枝春へ渡しもやうくと月ゆ舟　書政
桃のちり屋ゆひの宛に三ケ月　宇吉
津の國乃ゆ記の中ゆ蘇京

すみまりしゆて

春ゆ月やうつる宮り池乃水　清揚
ふひかしや初春ゆ月ハおきゆ貞　路春

返田

大そうけ遥とは春乃源田うれ　純候
ふ雁なとも和遥ほ田の地ふくうる　季遠
志のくとうまくまて遥ほわ田代　別可之
地かへせといふ也稲荷れ法作田　宣朝

津れ國ほれ記の中に

大和田なとも遥ほいうしや去電　清揚

苗代

苗代を燒并にするまそうる　秀清正
苗代にたつる僧都や法師武者　日宣友

苗代ぬ蛙乃明や時れ丁急　一夏
う孫くやなんしるれ屏風折　春如芥
田乃おせは是苗代れ去恵いうれ　山川正永

椿

七寶乃うちと詠ん和法紀　秀休堂清貞
揚と見て大和桂や奇れ見　日君見為法
とゝまつる花やまんこう和桂　花而立
とちりくも見るや面白れ和桂　日完計
是ぬに面白ぬや法ゝ花と数和桂　日花法

菊花咲ハけふ花の乃梢かな　同 守治

あらしにも朱(?)しけるや赤梢　石川 宗政

てんかうて胡蝶もまたや散梢　中(?) 胡今

咲花を鶯や舟のある梢　忘翁

風に梢鳴川笑声物狂ハ　信孫

花咲我や忘れしかも花の梢　十一歳 昌園

みぬうちにみてハんの花ちる梢　友淨

直な月も花ゆや浮む散梢　牝候

涅槃會

浮世ニ留てや佛も涅槃會の花の庭(?)　加州 可入

帰めともまた見ぬこそりハ涅槃子　同 一烟

涅槃會も亡てハ世佛世界子　中(?) 胡今

かくらもみてうて見ん涅槃會　泰(?) 可為

必婆ひ其月夜に佛務も人介　同 鷺

忘れもりあふて鳴涅槃介　信孫

鳥獣も鳴や宜しく二つ務ん　忘朝

菜ほ見かりしよの世涅槃像　きく

罪や五十ね哉 涅槃像　宝安

法涅槃也いきとし生れ物さひ
釈迦のつし花紙見るに世界
涅槃會也黄紙今にいきうつし
火けす世に釈迦入めつさ無正闇
あらぬけれ鶯に物りに釈迦如来
うたし聖法の法寺也法涅槃會
まさ為也世界なるさ涅槃像
為為と涅槃は雲れ手向が
口まれなるよりふに佛乃涅をたく

仰貞　正釈　定友　清勝　和州下田　菩薩　月縁　清貞　勝　勝正　河内　友好　后　光久

釈迦の別なけれに為れ業なる　可入

燕

家にいる法ろつんてうかゆへ如
法をてれんをもちる巣立り如
法をぬこ鳴法をてれ子ともか
くくうむ也子安の増れ燕の巣

和州斤島　清定　月　清正　月岩見　為法　本也

三月三日　曲水宴桃　詩于多合芳菲錦

曲水にあらて酒宴をしりひる
讀奇にあるも曲水は宴詩なる

京　光朝　光林

見ても菜乃ゆへし心や菜を解　清揚

梨花

海棠りいやさやうゆへ此花　京　立浦

梅ゑのこりなし此花ゆりゆ寝ゆる　松也

雲の上此体や来る梨花の夜　清揚

物をいはぬ花ゆへ冬宮や梨花此声　冬茂

おいて見て見えるなりや花ゆ風　季処

坪のうち出る口なしや花ゆり　正叙

けうひゆへとしこ此なし此花見ゆる　和州　良弘

散りは是此とかしとや花の風　左右　三山

花

けう拝の雲や花乃あ光り下　其ゆ中津　正恒

花くは前載集ゆ奇乃種　番　光政

一輪乃月のとゆりゆ花乃種　左右　皆庭

風の子や又其て花ゆる方ひ　お将　桂家

花伐ふへの病ひや風心　国防国　本寸子

月花と詠や雲此上と下　其ゆ　可益

花さそふ何し此庭や雪つゆて　統ゆ　政利

君ならで誰にか見せん梅の花
色をも香をも知る人ぞ知る

花にあかぬ嘆きはいつも同じ

心にて春の野に出でて若菜つむ

吉野山こぞの枝折の道かへて
まだ見ぬ方の花を尋ねん

吹く風をなこその関と思へども

道もせに散る山桜かな

花の色は霞にこめて見せずとも

香をだにぬすめ春の山風

春風は花のあたりを吹過ぎで

物思ふ人の袖をふるかな

春風の花を散らすと見る夢は

覚めても胸のさわぐなりけり

春風の花を散らすと見る夢は

覚めても胸のさわぐなりけり

春風の花を散らすと見る夢は

覚めても胸のさわぐなりけり

春風の花を散らすと見る夢は

覚めても胸のさわぐなりけり

書記に游ぶや老木に花乃波　貞則
人をさしかや鶯鳥なりて花に雲　粉治
深花智慧や心に花のかゝり題　友澤
月の佛是を見ひ見て花見ん介　良久
見ぬ花の白ひをも吹き数句ゟ　金蔵
花の色に心をうつしを絵筆ゟ取　勝宣

和州なる人に

風俗や花ちりは乃田乃山　西蘇
鶯かゝれ如咲ハ和略ゟ花軍　書政

電宿泰論に

花見宿やの花ゟ左ゝ三に中ゟ山　三友
夏れうちに見るや心に流ゟり花　良賀

津の國名の記の中に

もらひ笑ひするやおしに文に花　清勝
数とをときしたが来て花に風　松宗
夏に見るよしの山や稀いり花　正義
新聞と成や山語乃花智也　書政
技打ゟ志あん今ゟ乃花こゝろ　貞正

法の花にするハ一家發句ゟ取　一年
揚にむかひたんに開や花軍　宣友

志賀一見の時

黒ぬしの花の薙絵ゟ志賀ゟ山　清揚
花の高やさゝめん匂ひの左まの春　宣成
花ゟ風の口をしハあく事ゟ雪ゟ　正永
吹風のゝゝゝつハちりへ花さかり　季巡

十花之子句

花乃華やとりかくまつて芳雅山　宣朝

子枝ゟ咲花ゟも見ゟ月星ゟ　清揚
咲花の雲ちきれやうきれ松　泰極
花に寄奇れ云所や浅香山　路雲
子ゟ中咲数ゟなけいまし花の枝　松宗
花の枝乃なひくハ風ゟ子ゟ取ゟ　宣吉
八重一重高月に数や花むしろ　与俊
子句にハ花より外ゟ題をなし　真正
木ゟ落ゟ花の色ゟや猿ゟ流ゟ　泰志
一月乃栄花乃気や十百韵　宣安

追加

一 早々度追加乃花ハ蓮木ゟ分
ちりかゝる花ゟ也奇もとまりひ云　保友
　　清敬

泊瀬ゟて

花の蕊にかゝるみ引てやけひ坂　清揚
志りたる人やさつせれ花乃書　十四才　清友
ひらはたる座れ蕊や花れ和音　路春
第ゝ門ゟ姉くもいやなり花れ風　十三才　辰之丹
親ハ子にかゝ家をあしゝ花れ蕊　英揚

花盤一度や　さつとまゝひ蕊　昌室
流れ花ゟき撰よ心れ花れ蕊　貞好
風吹ハ花ゟにあつるゝ人ゟ　宇次
ちゝぬ月に屋れ三井寺れ花盤　不比子
花の色うつせハ梨ゟ縫木ゟ姫　正義
花に鄙や今丁ゟの色よ戸　清揚
心寄にあしてゝの花見ゟ姫　正室
空とらしのゝれ羽れ花さゝり　宇久
咲せんと花にせい氣やゝる此蕊　春次

けりにハ葉ちらひか花乃夜　西室

奥州岩城へ流りしたり

実ハ家のミ花になこそのほ意ハ遥　西海

これハくとたりり花の吉野山　京　貞室

神垣かひちを松乃称りり花　京州　因元

花乃夜やさと打とけてよひの夜　月　一燈

夜されて気のとくけや花の夢　月　可之

人れ気乃のかりそしこか花の枝　日　武和

よ称んな花三年坂の花乃ん卦　月　平朝

勇者かりとおそれを見ん花の夜　月　安之

それ花にて来ハかれ雷かくかな　月　一燈

涎丁を朝の花乃夜雲下　月　昌方

花に種源蜜志ゝ花タメ和　京州　正恒

月花に詠や奇乃程かりり　月　可量

天と地の実ゝへか月と花　京都　恵秀

夜花残ハめてらを吉野小　月　政光

ひぐくなる白ひ乃花れ見んもかな　月　心蓮

朝露にひへてや花の下雲　月　心計

大海を恐らしたぬちりの花乃波　日　霧完
質人をわやうれや乃ん花に風　日　守治

熊野にて

乃物をおり免ん如意輪の花の輪　日　雲雪
咲散ハ生死乃海の花の波　日　可道
柔まりす永をや浪れ花車　日　一完
花車おりてみまりの本陰かな　日　完計
汲酒や恐いかんかりて花の陰　日　世茂
極ふるやかなりと方あり花の陰　日　克明

春れ東の雪掛なりの月と花　日　皆座
花れ瀬の泉とやさん蝶れ家　日　守治
花に流れ世ハなさけ五ヶ行筒哉　加列　武彩
打たへて世ハ花なれや幕れ陰　日　一燈
好きれかことみや　花かうん　俊中　好忠
花軍毎と風とや二度れ掛　和列　為法
花乃比ハふうを付かな風袋　日　伝昌
花軍乃ゝこにかゝぬ人をかし　日　清定
花の春宿かそれやうに化粧　日　良弘

花見宿吾やよ戸ハ夜地利
起て子に志さり人物の花の夜
手稚ゆゑ歌ゑそさそふ花哉

月 信昌
月 真乗
月 正則

小鄭ゆて

花の法ハ朋遠方より小雅うか
常さきぞ又紙とくか稱り花
わを市にまとふや宮方の花盥
風のまとゝんて落るや花軍
花見ぬハ人ハ手かれや吉雅山

月 署子
月 宝吉
月 延平
月 尚昌
月 可益

待人毎ありて逢りたれハ
毎ありて浩句逢花の花の友
花ゆ碎ハ天に霞やむりひ酒
佛おに立ぬる花やすゝ志ん
風乃歌れ始り入やする花の山
伊駒山風ゆ歌ゝふ花ん花盥
丸木まそよしや吉雅の花哉
わりなくに又木へかへる落花小

俳丹 酒柏
傍 松安
稽久保田 正治
宇 宛利
酒 玉政
和 佗並 仁也
嘉 守宝

桜

花くれ中に櫻哉名ぬしかな　立以
小櫻れ花咲面や具足親　保安
福住道祐江戸へ向かり
給ふとなむけ事
時しれハ世のちりへなや江戸櫻　京　立圃
禅寺みて
春風ハ鑽断と年ぬけと櫻　珍也
蒸家物を活なくや蟻れ糸櫻　京所　休庵
波をとも蒸花やなけを糸櫻　在夜又基山　雲雪

姥櫻老をものへる花見かな　月　見計
折りしや見物とむる山ぢてら　月　古邑
火櫻れ活ぬとハ火打袋かな　月　花れ
短尺へハ祈禱れ札か家ぢてら　月　花法
起て後も花香みたり姥櫻　月　忠秀
咲花をおりちりしや伊勢櫻　月　口但
花を見て寓におりたりて家櫻　月　一家
火櫻を風ふハみちんこそいかな　月　見計
枝をやハ指は切とも見ん櫻　月　長松

咲ぬ枝は鬼門の方り家梅　日　雲雪
木末なる花に我孫よ姥梅　情州　良泉
破るなよ風常雨れ菓見菓　白寺　旨美
菩提もと樹にあるや薔薇象　日　尚昌

和奇乃宿ゆて

花のもとや是皆和奇れ家梅　河内　友好
流れ花は徳さいうそ伊勢梅　日　玄三
花見酒も吾や我舞姫江戸梅　日　正我
遠くゆるや我耳遠江姥梅　和州　清貞

鶯人はこしたりなれや家梅　日　定友

梅井寺まで手れ梅を詠て

居ならしみるや義樹乃梅井寺　日　良弘
手引かやいや足引の山梅　多倫　春悦

ひとましに

たる木を取今そ詠乃家さて　博　良敬
家梅継木れ花や若熊常　伊見　昌盤
見いるや露却く如りか家梅　日　政一
家梅さく事を行いう雅々分　平良　素桂

きれふ帯ハ昔御や姥櫻　法師 久恵
周ハ足乃代ぬりりや伊勢櫻　加列 周元
宮に志らぬ雪ふり袖り咒ん櫻　月 一成
毎乃おしや花れ化粧家櫻　月 一燈
今一め見ぬり二見乃伊勢櫻　月 可之

万歳寺ゆて

咒ん櫻乃花乃細せんや万歳寺　伊勢 酒粕
かゝれ周や見る塩竈の花ゝ風　加列 一燈
霞をうくる小櫻の葉やよゝ分け　[illegible] 吹恵

伊勢櫻見やとゝ世れ浪の花　月 正恒
塩竈ハ遠ふもちゝの花見ゝ　[illegible] 伊莫
毎霞の和ところ一生れ咒ん櫻　[illegible] 霞完
来ゝの中に毎霞をえたるゝ生櫻　月 信元
子路り来て見えたるゝ弟櫻　月 雲雪
廉を追て獵師も見るや山櫻　和列 定友
車庭ゆくりて花見よ糸櫻　石列 見候

追吾

落花相ゆかへりや死者れ山櫻　[illegible]

花軍すゝ陳小屋り家樣　今樣
まむ月の嵐をくしや家樣　路去
紋ときて風をひくなよ児樣　きり
花乃笆行格子りや家樣　貞則

何ろ女人をしらぬかりて

月せ屋人を来せぬ月れ児樣　清揚
春の代ゆ咲や八千代を茶樣　一切
月々人ゆゑ枝や家樣　知去
垂髪ハ面ゑれなれや家樣　幸返

嫌竈乃花りや何とれ濱の浪　冬代
咲ぬ月ハ内流りや家樣　通行
嫌竈や蜜にとゆる蜜乃家　通貞
月物を塗んしんわれ伊勢樣　定長
月々人や匂ひゆゑ姫樣　良久
流りまハ奇れさくしや家樣　[illegible]
楊貴妃乃花の露し地の王境　一切
花乃風をおもひなり伊勢樣　正揚
世縁と志てゆんん花や江戸樣　清揚

花の咲風や年込の戸樹　宅芸

上の古事にて

見わたる上の古事や咲人樹　きつ

太乙乃宿にて

根清きせよ前れたい白れ家樹　小山氏十四才　清友

見せ御しと白色やとちこかた樹　十三才　辰舟

折枝やふりさけ見れば伊勢樹　正友

風の花や咲塩竈のふり典　常俊

楊貴妃紙今見る花のすゝ介　吉清

妻れ日月を好ぬ月ゝや生樹　一好

蟻ま紀や花をいひ薬貴象　意朝

折とりし御とちこし稱れ象樹　季巡

妻風のまゝにて撫れ二生樹　清務

辛夷

花の風ハくまに汗濃りこゝし事　越後　正治

小菜花

七朝をけり森やまこひぬ小菜花　言久

ちれよせよ小菜れ花の上色等　河州　正氏

海棠

海棠乃寝耳にあり花の事　清務
海棠乃花れ梢やるまつら　純候
海棠やれかりてりれ花の事　和州　清真
塗つれこや海棠れ寝入花　同　清定
海棠れ鞍脚を当て花の宿　同　伝昌
海棠れ称ゆるいうつてさいよ哉　加州　一燈
短尺れつく海棠やれの辻　同　周元
海棠ことをしわふかとの花尺哉　宗悦

春夏は行者有り開く海棠花　河内　光久

沉丁花

菊を袖にとめ来て花のや沉丁花　清務
佛前乃鳥花なれや沉丁花　本也

木蓮花

花瓶みやたつとく尺ゆり木蓮花　和州　乃清
面ゆるゆ花ちりりせう木蓮花　本也
まことをしり咲や神通木蓮花　和州　山賀
そやく尺よちりたたれや木蓮花　宗久

躑躅

五月待花乃入名ハ岩清し　京　立圃
接つくと世まてもしらぬ岩清し　周防国　本寸子
名ハ中門ハ盛れ源氏躑躅ハ　清勝
花ハ細とけん紙ハと白躑躅　宝也
花ハ恒をせぬゆゑんハ清し　常政
花生ハ口ふも入や錬清し　季巡
ことを葉庭を作るや岩清し　不比子
塗打て口ろ紀ハ手もち清し　良久

咲花や砂長しして岩清し　荷　見計
己ハ枝をきまりハ気清く錬清し　日　可居
風のまゝ乃ゑとも清きハ岩躑躅　中ハ　友好

藤

松ハ岩や寺ハかつらハ此岩程　中ハ　可益
松ハ岩かゝ鶴ちきりや花乃縁　宝清
花の夜ハ池ハ水ハ岩ハ敬うしら　一切
岩の棚見れハ波ゑ額ハ紅　清勝
地なきに岩ハ清りと清りゑ　仙真

蓑れ中も同じにぬらされ蓑れ花　松志
蓑房や来房をとりし花れ風　清揚

禅寺れ蓑を

ワけてかりしいかなり是寺れ蓑　如貞
蓑波に来角やすまん寺れ場　深治
經尺人やとみも中ふも經ちれ蓑　定恵
蓑乃棚に飛ぶ蜂や波の音　貞正
笑ぬ月をいつまでかりひ蓑れ花　金花
草も鉄とをかぬ棚乃蓑れ所　令粒

蓑所と云所の蓑ふ西庄

蓑所や法人ゝ詠りけり蓑　友加
山頂ことゝをおもそへ蓑とりへ　信次
けりと鶴も妻れ蓑の蓑戸外　家教
人の心中になりたり蓑の棚　清揚
妻乃花の蓑とやみん蓑の森　左作　正室
蓑に飛蜂やかつれ舞姿　月　三山
蓑こゝを馳てやすけぬ花の貞　月　四升
蓑の棚や是てんれ詠抱　月　蕙

款冬

山吹や是(?)草流(?)にとりし花　加州 一樹(?) 十三才 辰(?)女

山吹乃花や蛙乃前(?)の髭
鼓(?)花金の瀬(?)あて　敦賀大坂寺 乃山

山吹の名や清(?)あらし此(?)より海(?)　和州 清定(?)

金花の露(?)やまみ(?)て流(?)山吹

蝶

春(?)暮や見(?)しせんさ花の花の蝶　播州 之永

寝(?)とらくろ(?)乃胡蝶や蝶(?)はなまとひ　之翔

花おさ(?)の胡蝶ハ舞の曲もなし　宗(?)指

花乃史(?)ハ影(?)の緒り蝶の舞　和州 為法

蓑(?)にほ(?)ふ胡蝶や桃(?)の[?]ひ　絶(?)候

花の壷(?)何ほ(?)いづて(?)に寝る胡蝶　一均

花の宿(?)さいふ兄(?)ふ胡蝶かな　元武

春(?)[?]の蝶や菜(?)[?]の下の舞　愛(?)

寧(?)帯とも[?]の蝶の[?]り[?]　常(?)政

てふ/\や[?]の[?]と[?]の[?]　伯貞

花乃露ハ月とも[?]蝶の気つけ[?]　岩(?)

胡蝶舞ひしに人事なれ花の夜　清房
胡蝶ありて雲ゝ地花にて春の象　尚方
面白やいとゆゑてふれ舞れ曲　宮の　宣房
咲花の浪ゝ人をや舞胡蝶　日　正恒
見る人や蝶の身となる寝入花　去信　雲雷
立寄て岑乃花ゆゑや蝶れ舞　河州　吉政
花前なや花とのゝ蝶れ舞　日　友好
ぬしなりて
花のうちにぬれ蝶あしれ物変れ　出昌

蝶
摩なきれ奇しや是ひきかへる　法洋院安藤　入宣
夢ひれ中央難題なし蝶奇　金藤
住吉れ岸やかゝれ奇まそら　宗清
田乃草のかゝりなりし中の蝶　去信　雲雷
法都のハ水口く乃蝶ゝ姉　秋候
千句第二
浪の底ゆ都ゆて我ゝ人ゝ奇　清房
奇をよむと人ゆハ告よ何ま蝶　一切

蛙軍花紙ちらすや池の波　良久
うゑ草にふけ田に蛙軍の紙　本也
なゝ重ゝ重を志りても池にはふかへり　伯貞
池ふりし蛙の前に庵さゝ絵　純俊
尾かへり安や源蔵に唐すゝ　清揚
蓋てより田前をかゝに蛙の子　[illegible]可並
友紙とひの前に集りかへり紙　[illegible]一[illegible]
[illegible]れかけにより紙鳴かへり紙　[illegible]霜完
長明の笑花川に讀蛙前　[illegible]去改

帰雁

御の安紙より僧して鉢飾の紙　令極
山むけ紙碍や計圭に針紙なり　本也
かんかりと志てたれなるに御碍　光昌
難波江のあしにとに立御碍の紙　正義
こゝ紙類にむそんそ御の一の数字　[illegible]可入
名ちりや重みやけして御碍　[illegible]可並
[illegible]れ重みやようあり[illegible]に御碍　[illegible]生林
[illegible]へり紙すゝりに詠の那　友澤

立ちのぼるみねをや雲ノ霞
うぐひすにそしてなくやかの霞　和州 信昌
鶯は霞の内にても啼ける　清勝
花紋は常となりてや啼ける　土佐 [illegible] 如行
雨ぬ花悔霞やいさ水別棹　山城 可竜
加州 可之

雲雀

見しも霞は雲雀も雲雀　宗朝
籠ぬ入て家ぬもあるは雲雀　[illegible]
啼くしに声打そへ空ぬ雲雀ぬ元　[illegible]
あるりて行りもぬ雲雀　山門 西永
八潮ぬ鳴音をやぬ雲雀骨　京 宗休

雉子

屋ぬことさら雉は子ぬ人ぬ
時ぬ雨ぬ聖は雉子は鳴　播州 [illegible]永
さらぬ雉子をもぬ世は雉子
雉子は子ぬ合　不学
雉子は子ぬ合　白甫
雉子は雉子は雉子は　純俱
追は雉子の声　加州 一燈

法へ入り雪魄にあふ雛子の姉　良久

廻文

いつ[illegible]屋敷の雛子やさかりい　西愛

茶掃姫や雛子にあふ方鷲の爪　俳愛

鳥巣

[illegible]て出あし　[illegible]　玖也

[illegible]鳥を巣をてふ[illegible]　加別　為法

吉姫金の鳥[illegible]あて

巣立てまだ[illegible]　日下田　[illegible]

[illegible]あし又さくかしや[illegible]　加別　可之

雜春

[illegible]せ[illegible]かしや呼子鳥　以紀

[illegible]頂てさあれいかのかり　加別　一燈

[illegible]人やくりそくりて鬼野老　去作　[illegible]

のりの[illegible]ひらせ[illegible]　良賀

[illegible]山桝[illegible]　去作　永風

[illegible]山桝[illegible]　忠昌